

行/事/予/定

9月~11月

- 9月14日(日) 第8回山口市民体育大会
- 9月25日(木) 高齢ドライバー1日ドック【山口県交通安全学習館】
- 9月27日(土) 大歳地区敬老祝賀会【県総合保健会館】
- 9月28日(日) 交流列車おおとしまつり【大歳駅】
- 9月28日(日) 第37回大歳地区バドミントン大会【スポーツ文化センター】
- 10月19日(日) 大歳地区一斉清掃【各自治会内】
- 11月 2日(日) 第38回大歳まつり【大歳地域交流センター前駐車場】
- 11月13日(木) 高齢ドライバー1日ドック【山口県交通安全学習館】



「交流列車おおとしまつり」ポスター

招 招 と し か わ の 路

Information

■「大歳花いっぱい運動花壇コンクール」の審査が行われました。

平成26年度の花壇コンクールの審査が8月8日(金)に、行われました。11団体(子ども会6、自治会4、福寿会1)が参加し、以下のような結果となりました。なお、11月3日の大歳まつりで表彰式があります。

- 優秀賞
上矢原子ども会、下湯田子ども会、矢原住宅自治会
- 優良賞
高井自治会、中矢原子ども会、岩富子ども会
- 努力賞
下矢原子ども会、矢原第2住宅子ども会、朝田福寿会、上湯田上自治会、勝井自治会



■ 第6回大歳地区一斉清掃が10月19日(日)に実施されます。

大歳地区の環境整備や子どもから高齢者まで地域でのふれあいの場づくりとして始められました。地域の皆さんの参加をお願いします。

■ 毎月第1月曜日はあいさつの日

鴻南中学校区協育ネットでは、10月から、毎月第1月曜日をあいさつの日と定め、大歳地域、吉敷両地域で、あいさつをしようという運動を始めることとなりました。子どもたちだけでなく、地域の大人が模範を示し、大歳で元気なあいさつが響くように、ご協力をお願いいたします。

■ あいさつ運動の「のぼり旗」を各自治会内に掲示しました。

大歳地区の「あいさつ運動の推進」活動の一環として、8月6日より各自治会内で「あいさつ標語」ののぼり旗が掲示されています。

■ 第5回 三世代交流グランドゴルフ大会が開催されました

8月23日(土)大歳小グラウンドで三世代交流グランドゴルフ大会が49人の参加で開催されました。参加された皆さんは子ども達に指導しながら和気藹々とプレイを楽しんでいました。

表彰式の後、全員でソーメンを食べ、三世代の交流がより深まりました。また、プレイの途中で、山口線全線復旧を記念し、SLやまぐち号に、全員で団扇を持って手を振りました。(以下、結果)

- 一般の部
優勝 松本 正史
準優勝 末永 雄一
3位 升田 正通
- こどもの部
優勝 水田 真希
準優勝 矢野 翔梧
3位 吉本優太郎

編集後記

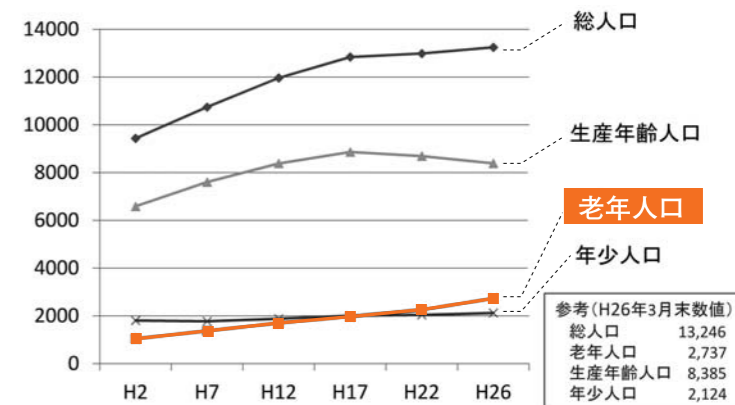
今年は、近くで災害がないことを祈っておりましたが、県内をはじめ隣接する県や全国各地で大災害が発生しました。「私らが住んでるところは、災害はありません」とか「私にはそんな災難はありません」とか根拠の薄い安全神話にとらわれて、被災したり、命を落とすことの無いように、日頃の備えは十分に。(幸坂)

まちづくりおとし かわら版

高齢者が生きやすい社会をめざして 敬老特集

急激な高齢人口の変化

敬老の日がやってきます。大歳では、この20年間で、65歳以上の高齢人口は2倍以上になり、2,800人に近づいています。ただ、総人口が32%増えているため、高齢人口率は市の平均より低くなっています。しかし、5年後には新たに700人が65歳以上になるなど、今後、急速に高齢人口が増大すると予想されています。



大歳地域の人口動態

高齢者問題を考える時は、全く正反対の対応が問題になります。一つは、生産年齢人口減少の中で、元気な高齢者に、これまで以上に様々な社会活動で活躍できる場や機会を広げるという課題。もう一つは、買い物や日常生活に様々な困難をかかえた高齢者が、安心して生活できる社会をつくり出すという課題です。両者を響き合わせて、後者の課題の解決をはかるなど、様々な視点から取り組みをすすめていくことが必要になっています。

今何が必要か

- ◎病院から退院してきた一人暮らしのおじいさん。誰がどのようにかかわればよいのかという近所の方からの相談。
 - ◎認知症で徘徊を繰り返すが、列車を止めて損害賠償を請求されたなどという話を聞くと、見張りをして家に閉じ込めておくばかり。でもこれで、本当によいのか悩んでいますとの家族からの相談。
- 民生委員は高齢者問題の最前線にいますが、ど

らの例でも、地域の方の日常的な「見守り」がなければ、民生委員だけでは十分な対応ができません。また、山口市は認知症の方、一人に二人のサポーターが支援する体制づくりをめざしています。これから、是非多くのみなさんにサポーター養成講座を受けて、サポーターになって頂きたいと思っています。◎今年も大歳で、三人の方が孤独死されました。誰かに「看取られ」て死を迎える事は人間の尊厳にかかわる問題です。でも「人様に迷惑はかけたくない」という生き方を貫く高齢の方も多く、独居や高齢夫婦の方からの相談が少ないため、気づくのが遅れる例が大変多いことが悩みです。「生きがいサロン」など、身近に相談でき、頼れる人がいる状況をつくりたいとがんばっています。同時に、高齢者が気軽に相談でき、健康から生活の問題まで「ワンストップ」で対応できる機関があれば、ご近所の方からも相談しやすいのではないかと考えています。

耳よりインタビュー

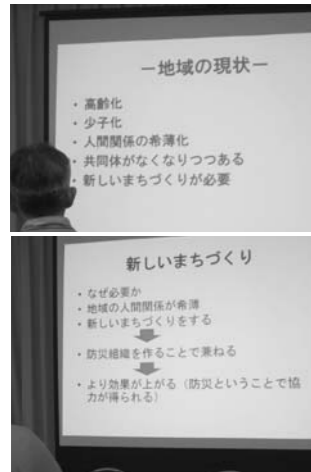
高齢者問題に詳しい専門の先生に伺いました。

山口大学教育学部 教授 山本 善積先生

私は歩いていける範囲に買い物・医療・介護などの施設を整える生活圏の充実を高齢者も生きやすい社会づくりの基本に据えるべきと考えています。その上で、生活圏充実の課題と地域での見守りや交流推進の課題とを有機的にすすめていく体制の強化が必要です。それが、地域に「新しい互助」を

広げていくのではないのでしょうか。しかし、高齢者の多様な思いをくみ取れないもどかしさが、どこでも悩みとして出されます。モデル地区を設定して集中して調査するなど、できるだけ正確にニーズを把握することからすべてが始まるという原点に立ち返ることも求められています。

第2次大歳地区地域づくり計画説明会開催



プロジェクトを用いた説明

これまでの「第1次大歳地区地域づくり計画」を踏まえ、さらにより良い地域とするため、昨年、地域座談会等を開催し、たくさんの地域の皆様のご意見をいただいた上で、「第2次大歳地区地域づくり計画」を策定しました。

この計画では、「みんなで作ろう 明るく住みよおとしを」

をキャッチフレーズにさまざまな事業を展開し、協働によるまちづくりを進めていこうとしています。このような中で、地域の皆様に、計画を実践していく、我々「大歳自治振興会」をご理解いただき、積極的に事業へご参画いただくため、「第2次大歳地区地域づくり計画」の説明会を各地域で開催することとしました。

第1回目は、7月29日(火)、上矢原公会堂で地域の班長さんに対して行い、前計画の検証、直

面する地域の課題、その中でどのように事業を展開しようとしているかなどについてご説明いたしました。

これから地域のご希望に応じて、担当者が地域に直接出向いて、計画をご説明しますので、ぜひ、大歳自治振興会事務局まで声をおかけください。



熱心に聞き入る参加者の皆さん



上矢原自治会における説明会の様子

山口線全線運転再開イベントで盛り上がりました



大歳駅で歓迎をする様子

昨年の豪雨災害で山口線が一部運行できなくなりましたが全線運転再開し、8月23日(土)に各駅や沿線、記念の行事が行われました。

大歳駅や大歳小学校のグラウンドでも300人以上が団扇を振ってSLやまぐち号を歓迎し、大いに盛り上がりました。

「交流列車おおとしまつり」開催のお知らせ

来る9月28日(日)10:00~15:00まで、大歳駅で「交流列車おおとしまつり」を開催します。

主催は交流列車おおとし運営委員会で、定期利用団体による、大正琴、オカリナ、ハワイアン、ハーモニカの演奏をお楽しみいただき、こども習字、おしばな、山口総合支援学校の生徒の皆さんによる作品の展示をしていますのでゆっくりご観覧ください。

また、バルンアート、かき氷、綿菓子等お子様向けにサービスをしていますので、ご家族やご近所お誘いあわせのうえ、みなさんのお越しをお待ちしています。



三代交流ランドゴルフ大会の途中、SLやまぐち号に手を振る参加者の皆さん(4頁参考)

■やまぐち車座トーク21in大歳!

渡辺市長も参加

8月4日(月)、大歳地域交流センターで、大歳自治振興会の代表者会議に市長さんほか担当部長さんをお招きする形で、「やまぐち車座トーク21in大歳」を開催しました。

これは、これまでの大歳地区の地域づくりの取り組みを踏まえ、現在、そして、これからの大歳地域にとって、大きな課題と捉えているテーマについて、地域の考えや苦悩を市と共有し、協働で対処していくことを目的に、意見交換を行うものです。

今回、そのテーマとして、①高齢者対策、②地域の安全・安心対策、③自治会活性化対策、④自然災害対策の4つを掲げ、意見交換をし、渡辺市長からは、高齢化社会が進展する中で、高齢者の方々の一層の活躍が期待されることや、新聞配達事業者等との連携による市内の見守り体制の拡充、市と自主防災組織との連携のあり方、さらには、市内の地域づくりに係る特色ある事例の市報等によ

る紹介を行うことなどについて意見や提言がなされました。

どのテーマも簡単に解決出来るものではないものの、これからも地域と行政がともに連携し、取り組んでいくことを確認しました。

地域の皆様に、こうした取り組みをご理解いただくとともに、積極的に参画いただき、真の地域づくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、これまで以上に、ご協力をお願いします。



大歳歴史の散歩道 Vol.7

寺子屋の師匠たち

江戸時代には、庶民のための公的機関はありませんでした。しかし、天保の頃には、多数の寺子屋(初等教育)、私塾(中等教育)が生まれ、庶民教育が広がりました。

大歳でも、朝田に磯部源蔵と子の佐五右衛門、馬庭に佐々木曾根之助、和田に井村新吾、高井に伊東兵太、岩富に内田藤太郎・山下一精・羽丹與一・徳光直明、矢原に養元寺、下湯田に峰村小右衛門、その他中井豊久、益永峯持などの名が残っています。もちろん、半世紀近くの間話ですから、岩富に四力所、朝田・馬庭・和田・高井に四力所の寺子屋が同時にあったのではなく、こうした人々が順次師匠を務めたのでしょう。

寺子屋は師匠のいる所が学校で、師匠がいなくなれば閉鎖される簡便で流動的なもので、生活に必要な事を教え、家事の手伝いができるよう午前中で授業を終えるなどが配慮されていました。教育から縁遠かった農民たちの間に商品作物栽培が広がり、商人的才覚が必要になってくると、「読み書きそろばん」を教える寺子屋が爆発的に広がっていきました。



大歳小学校

彼らはどんな人だったのでしょうか。下線

をつけた8人は武士か、その一族であろうと思われます。大歳、特に朝田地区には多数の吉敷毛利氏の家臣(大半は半農化)が住んでおり、師匠となっ



養元寺

た武士の比率は全県平均よりかなり高かったようです。僧侶と医者も漢籍を自由に読みこなせ、寺子屋師匠になる例が多いのですが、養元寺以外に有力なお寺が無いなどの事情が働いたのでしょうか。子どもの頃から学問の素養をたたき込まれ、地域の指導層としてのプライドをもち、暇のある武士は寺子屋の師匠にピッタリです。

武士は城下町だけに住んでいたと考えがちですが、長州藩は、萩以外に在住する武士が30%を超す(足軽以下を除く)、武士の地方在住率が高い事で知られています。同じ事が薩摩藩や土佐藩にも言えます。明治維新が下級武士と豪農の同盟で推進されたと考えれば、その結合を容易にした要因はこんな所にもあったかもしれません。また、武士の地方在住の多さは、山口が長野に次いで寺子屋が多かった一因ともいえるのではないのでしょうか。